

## 平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	61人	算数	61人	理科	61人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人
------	----	-----	----	-----	----	-----

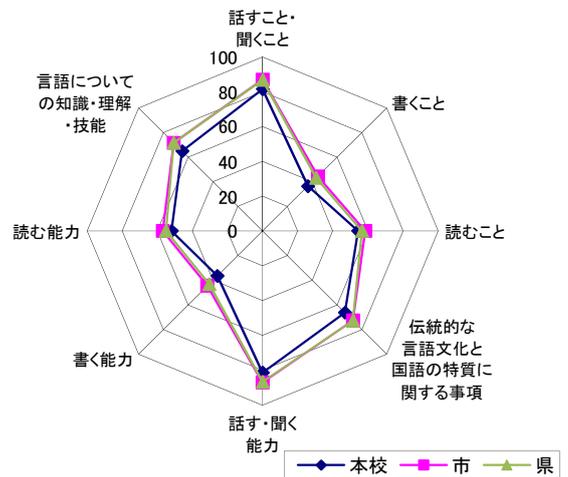
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.4	87.0	86.7
	書くこと	36.5	44.5	43.1
	読むこと	54.4	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.3	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	81.4	87.0	86.7
	書く能力	36.5	44.5	43.1
	読む能力	51.9	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	64.9	71.7	71.7



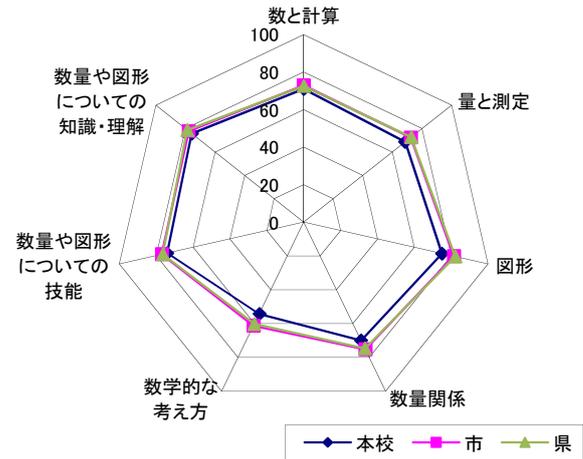
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の内容を聞き取る問題では、話の中心に気を付けて聞くことができていた。正答率も81.4%と他の領域に比べて高くなっていた。日頃から話をよく聞くことの大切さを話し、授業中だけでなく、学校生活全体を通して指導している効果が表れたと考える。</p> <p>●互いの考えの共通点や相違点を聞き取る問題には課題がみられた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の生活の中で話を集中して聞く習慣を身に付けさせるよう、話を聞くことの大切さを引き続き指導していく。</li> <li>・話し合いをする時に、自分の意見と友達の意見を比べながら聞くことができるよう、必要に応じてメモを取ることできるよう指導していく。</li> </ul>
書くこと	<p>●報告書を作成する問題では、報告書の構成を選んだり、必要な文を選び、書こうとする内容を明確にして書き抜いたりすることに課題がみられた。単元のワークテストでも正しく書き写せない児童が多く、指導を続けているが、まだ定着していない。</p> <p>●お礼の手紙を書き直す問題では、無回答の児童の割合が34.4%と高く、書くことを苦手に行っている児童が多いと考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことに慣れるように日記指導を取り入れていく。</li> <li>・手紙の書き方については、初めに書くあいさつの言葉や中心となる要件、お願いの言葉、終わりのあいさつなど、要点の一つ一つを再度確認する。また、生活の中で書く機会を設定し実際に手紙を書く経験をさせていきたい。</li> </ul>
読むこと	<p>○物語の内容を読み取る問題では、場面の移り変わりや登場人物の気持ちを想像して読むことができていた。朝の読書の時間やブックリレー等を通して、読書活動を奨励している成果の表れだと思う。</p> <p>●説明文の内容を読み取る問題では、文と文とのつながりに注意して読み取ることに課題がみられた。説明文を読むことに慣れていないことが影響していると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。</li> <li>・物語文だけではなく説明文にも意図的に触れさせていくために、読書の時間に説明文を読む時間を設定する。</li> <li>・説明文の内容を段落ごとに読み取ったり、段落のつながりを考えながら読み取ったりする読み取り方をきちんと押さえながら指導していく。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み書きは、問題によって正答率の差はあるが、正しく書ける児童もみられた。継続して漢字練習を家庭学習で行っている児童は、正しく解答できた。</p> <p>●反対の意味の言葉や主語と述語の関係、漢字のへんとつくりなどの構成の理解に課題がみられる。高いの反対の意味の言葉を選ぶ問題では、誤答のほとんどが低いを選んでいった。問題文をよく読まず、高いの反対は低いと解答したのだと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字の練習の時には、筆順や部首をきちんと押さえ指導をしていく。</li> <li>・家庭学習で漢字練習に取り組ませるとともに、練習の成果が表れるようなミニテスト等を実施し意欲をもたせていく。</li> <li>・反対の意味の言葉や主語と述語の関係などは、多くの問題に触れさせ知識を定着させていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.0	72.9	72.6
	量と測定	68.6	72.4	72.6
	図形	75.0	81.4	82.1
	数量関係	69.9	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	54.3	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	74.1	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	75.7	77.8	78.8



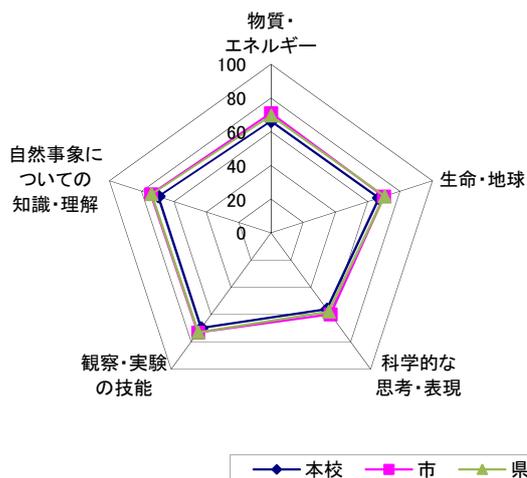
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○繰り上がり、繰り下がりのある計算では、波及的繰り上がりのある計算の正答率が93.4%、繰り下がりが2回ある計算の正答率が93.6%と県の平均に比べ高くなっていった。朝の学習などで計算練習を続けている成果だと思われる。</p> <p>●3位数×2位数=4位数の計算や整数-1/10の位までの小数の計算では、正答率が低くなっていた。計算を順序よくしなかったことが原因だと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり、繰り下がりのある計算練習を朝の学習や家庭学習などで引き続き継続して取り組んでいく。</li> <li>・かけ算の筆算やわり算の筆算、小数の計算なども、計算の仕方を身に付けさせるとともに、計算練習に取り組ませていく。</li> </ul>
量と測定	<p>○時ごとと時間の問題では、一定時間後の時刻を求める問題の正答率が83.6%、2分間は何秒かを問う問題の正答率が93.4%と高くなっていった。日頃から時間を気にしながら行動するように話をしていることがいい影響を与えているように思われる。</p> <p>●5kmは何mかを問う問題やはかりに示された重さを読み取る問題の正答率が低くなっていた。児童にとって、時計は身近なものだが、はかりの読み方やkmという単位は身近ではないので理解が深まらなかったと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、時間を意識しながら生活するように、引き続き指導していく。</li> <li>・はかりや定規、巻尺などに触れる機会を設定し、実際に重さや長さを測る経験を再度させていく。</li> <li>・はかりや巻尺の目盛を読むときには、1目盛の大きさに気を付けて読み取る習慣を身に付けさせていく。</li> </ul>
図形	<p>○三角形の図を見て、三角形の名前を答える問題では、正答率が91.8%と高くなっていった。正三角形の定義を理解していることが分かる。</p> <p>●円の直径や球の半径を問う問題では、正答率が低くなっていた。直径や半径など覚えなければならないことを忘れてしまっているように思われる。また、二等辺三角形の作図も正答率が低く、正しくコンパスを使い作図する練習が必要だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスの使い方については、苦手な児童には個別に指導をし、技能を身に付けさせる。</li> <li>・三角形や円の作図の経験を増やすように、復習問題に取り組ませていく。</li> <li>・円や球の半径や直径など大切なことを復習していく。</li> </ul>
数量関係	<p>○棒グラフの縦軸の目盛を読み取る問題の正答率が85.2%、棒グラフを正しく読み取る問題の正答率が83.6%と高くなっていった。棒グラフは見た目で分かりやすく、児童にとっては簡単だと思う内容なので自信をもって答えられたのだと思う。</p> <p>●わり算の文章問題を口を使って図に表したり、式を立てて答えを求める問題は正答率が低くなっていた。問題文を正しく読み散ることが難しかったり、よく読まなかったりしたことが正答しない要因だと思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題に取り組む機会を多くしていく。</li> <li>・文章を読んで立式をする上で、重要となる言葉にアンダーラインを引くなどして着目させ、どのような式になるかを考える習慣が身に付くよう多くの問題に取り組ませる。</li> <li>・文章問題を考える際に、テープ図などを利用して解くことを再度押さえ、文章問題を解く機会を多く設定していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.4	71.1	69.6
	生命・地球	66.9	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	56.1	59.8	57.8
	観察・実験の技能	69.9	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	69.7	74.3	74.0



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○磁石の性質では、磁石を近づけてはいけない物を選ぶ問題の正答率が91.8%と高くなっていました。また、磁石の力の働きを日常生活に関連付けながら考える問題の正答率も県の平均よりも高くなっていました。磁石の学習は児童が興味をもって学習していたので内容が理解できたのだと思う。</p> <p>○ものの重さでは、物は形を変えても重さが変わらないことや体積が同じでも重さが違うことなど、重さの性質を問う問題の正答率が高くなっていました。重さの学習も実験を通して楽しみながら学習していたので内容が理解できたのだと思う。</p> <p>●電気の通り道では、電気の通り道を回路と答える問題や電気を通す物と通さない物を理解しているかを答える問題に課題がみられた。</p>	<p>・知識・理解が不十分だった「光の性質」では、鏡や虫眼鏡の実験を通して一人一人に確認させる。また、「電気の通り道」では、回路という用語を意識できるよう繰り返し指導する。</p> <p>・実験の技能はおおむね身に付いてきているので、さらに何度も繰り返し指導し定着を図る。</p> <p>・思考・表現については、問題文や選択肢を正しく理解できるように下線を引いてから考えるよう指導する。また、電気と磁石に関連する単元では、電気を通すものと磁石につくものを混同しているようなので関連する単元では何度も既習事項を確認する。</p>
生命・地球	<p>○こん虫と植物では、モンシロチョウのような昆虫が変態する順番を答える問題の正答率が90.2%と高くなっていました。生き物が好きな児童なので生活経験と知識が結びついているのだと思われる。</p> <p>○太陽と地面の様子では、1日の太陽の動きを選ぶ問題や影のできる向きとから太陽の位置を答える問題の正答率が県の平均より高くなっていました。これも生活経験が生かされたのだと思われる。</p> <p>●方位磁針の正しい使い方や温度計の目盛の読み方を答える問題に課題がみられた。</p>	<p>・知識・理解が不十分な植物の育ち方の順序や一日の太陽の動きなどは、身近な自然に触れる機会を増やし学習した内容と生活の中での体験を関連づけさせる。</p> <p>・実験・観察の技能が不十分だった方位磁針や温度計や虫眼鏡の使い方は、他の単元や教科でも使うときに繰り返し指導して定着を図る。</p> <p>・思考・表現については、知識・理解や実験・観察とも関係が深いので、正確な実験や観察を通じて得た正しい知識をもとに自分の考えを表現できるよう指導する。</p>

## 宇都宮市立宮の原小学校 第4学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をやっている。」と回答した児童の割合は95.1%と高い。また、「宿題の量はちょうどよいと思う。」と回答した児童は80.3%、「宿題は自分のためになっている。」とした児童は100%である。今後も、宿題の量と適切な内容を検討しながら、意欲をもって取り組めるよう指導していきたい。

○「毎日、朝食を食べている。」「早寝、早起きを心がけている。」など、家での生活についての質問に肯定的回答をした児童は、県平均を上回っている。1日の睡眠時間については、「8時間以上」とした児童が47.1%であり、県平均を上回っている。児童の生活習慣についても、引き続き家庭と連携を図りながら、指導していきたい。

○「勉強をしておもしろい、楽しいと思うことがある。」「不思議だな、なぜだろうと思うことがある。」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の質問に、肯定的回答をした児童は、それぞれ93.4%、88.5%、96.7%と、いずれも県平均を上回っており、学ぶ意欲は高いことが分かる。今後も、児童ひとりひとりの思いを大切に、意欲をもって学習に取り組めるような工夫を継続していきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。」88.5%、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。」83.6%、「人と話すことは楽しい。」100%、「将来の夢や目標をもっている」96.7%、「自分は家族の大切な一員だと思う。」98.4%と、自分自身や家族についての質問において、肯定的回答の割合は県平均と比べて高い。児童を認め励ます教育の成果であると考え、今後とも、学校と家庭が連携して、ひとりひとりの成長を見守り、支援していきたい。

○学校での様子について、「授業の目標がしめされている。」90.2%、「授業の最後に学習したことをふり返る活動を行っている。」77.0%である。授業の目標をしっかりと提示し、ふり返りの場を確保し、学習内容の定着を図っている。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」についても90.2%の児童が肯定的回答をしていることは、各教科の授業の中で、言語活動を多く取り入れている成果であると思われる。また、「先生は学習のことについてほめてくれる。」と回答した児童は93.4%であり、県平均と比べて高い。児童ひとりひとりの努力やがんばりなど、よいところを認めて、大いに賞賛していきたい。

●「家で、授業の予習、復習をしている。」と回答した児童の割合が少ない。特に「復習をしている。」とした児童は23.0%と低く、県平均を下回っている。年度初めに実施した家庭学習についての指導「家庭学習の手引き」を再度確認し、家庭との連携を図りながら、児童が自主的に家庭学習に取り組めるための指導に努めたい。

●読書について、1日当たりの読書時間が「2時間以上」「1時間以上」「30分以上」と回答した児童は、どれも県平均より低く、「30分未満」と答えた児童が75.4%と多かった。「1か月に読む冊数」は、「5冊以上」とした児童が57.3%と半数を超えているが、朝の読書の時間等を活用し、読書の啓発をしていきたい。

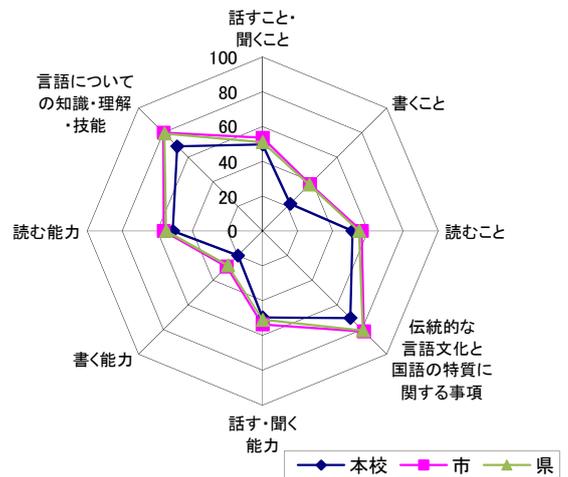
●「学校のきまりを守っている。」と回答した児童は67.2%で、県平均に比べ低い。きまりを守ることの大切さについて再度確認し、指導に努めていきたい。

●「新聞を読んでいる。」の質問に、肯定的回答をした児童は11.5%と少なく、県平均と比べても大きく下回っている。「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている。」の質問に肯定的回答をした児童も、34.4%と低い。また、「社会の学習は好きですか。」の肯定的回答も県平均に比べて低いので、社会科の時間等を活用し、社会的な事象に興味・関心をもてるような支援をしていきたい。

# 宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	49.7	53.6	51.0
	書くこと	22.2	38.1	37.6
	読むこと	51.2	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	49.7	53.6	51.0
	書く能力	19.9	29.0	28.0
	読む能力	51.2	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	68.9	79.9	79.1



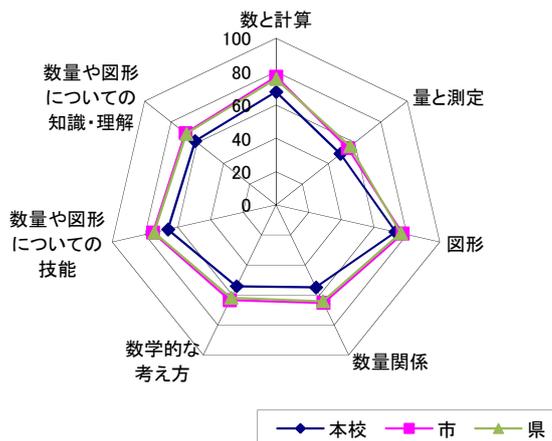
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話の内容を聞き取る問題では、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことができていた。学校生活や授業での様々な話し合う活動が生かされたと考える。</p> <p>●発表するために調べたことの要点をまとめる問題では、正答率が低く、課題がみられた。</p>	<p>・今後も様々な授業や活動場面で、意図的・積極的に話し合い活動を取り入れる。互いの考えを比較して聞くなど、より深く広く話の内容を聞き取れるよう指導する。</p> <p>・発表する活動を機会に、調べた事実を相手に伝えるために短くまとめることを丁寧に指導する。また、繰り返し指導することで話す内容の中心を意識しながらまとめられるようにしたい。</p>
書くこと	<p>○説明文の内容を理解する問題では、目的や必要に応じて中心となる語や文をとらえて記述することができ、県の正答率を上回った。</p> <p>●作文の問題において、与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことに課題がみられた。また、無答率が高く、作文を書くことへの苦手意識が高いと考えられる。</p>	<p>・とらえることのできた、説明の中心になる語や文を使って内容を整理する際に文末表現や主述の関係を正確に整えられるように指導する。</p> <p>・単元導入時の物語や説明文を読んだ初発の感想を書く活動に時間的ゆとりをもたせるよう努め、活動内容の充実を図る。また、宿題に日記を取り入れるなど、考えを書く機会を設け、苦手意識の解消に努める。指導の際には、「なぜなら」「たとえば」「だから」などの接続詞の使い方を繰り返し確認し、定着を図る。</p>
読むこと	<p>○物語の内容を理解する問題では、叙述を基に、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取ることができた。朝の読書の時間や読み聞かせなどの活動の成果だと考える。</p> <p>●説明文の内容を理解する問題では、目的や必要に応じて段落相互の関係をとらえることに課題がみられた。文章の構成を考える活動を繰り返してきたが、まだ定着していない。</p>	<p>・朝の読書の時間等に加え、学校で取り組んでいる家庭での読書活動を推進し、より多くの物語文を読ませるようにする。</p> <p>・序論、本論、結論などの基本的な文書の構成について繰り返し指導し、定着を図る。また、接続詞や文末表現に注目できるようにすることで、段落相互の関係を理解させる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○言葉に関する問題では、読点の打ち方について理解することができていた。</p> <p>●漢字の読み・書きの問題では、特に書きに課題がみられた。また、第4学年配当漢字以上に第3学年配当漢字の書きの正答率が低く、時間の経過とともに忘れてしまっていることが考えられる。</p>	<p>・読点を打つ位置により伝わる内容が異なる場合もあることをよく理解させ、いつでも正しく使うことができるよう、丁寧な指導を行う。</p> <p>・家庭学習での既習漢字の復習を奨励する。また、ノート指導において、漢字の書きについて注意を促し、正しく丁寧に書けるよう、指導を継続する。</p>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	67.9	77.0	75.6
	量と測定	49.1	54.8	56.5
	図形	73.1	77.4	76.3
	数量関係	55.0	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	54.3	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	66.0	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	61.6	69.1	68.4



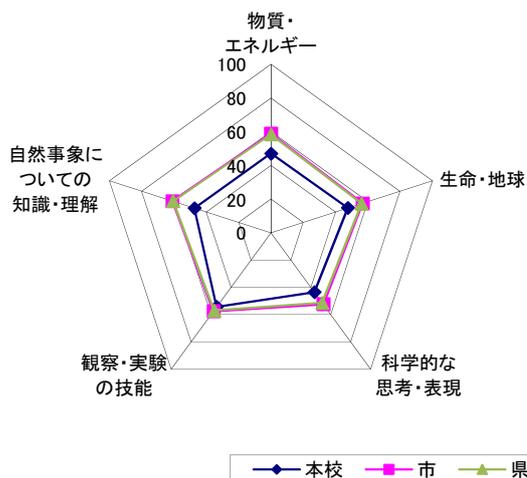
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○倍とわり算の文章問題をあらわした図を選ぶ問題についてはできている。演習の積み重ねが結果に表れている。</p> <p>●小数が含まれる計算問題の正答率が低い。計算過程で、小数点がずれていないか、四則計算の種類によって小数点の位置が変わることへの意識が不十分であることが原因と考える。</p>	<p>・今後も、計算演習の機会を増やしていき、間違えたところは正解するまで何度も取り組ませていく。</p> <p>・少数の計算をする際、小数点の位置を意識して解かせることや、四則計算の種類によって小数点の位置が変わることを意識させるよう授業等で声掛けをしながら指導を徹底させていく。</p>
量と測定	<p>●正方形の面積を求める問題や身近にあるものの面積を推察する問題の正答率が低く課題が見られる。</p>	<p>・面積を求める公式を理解させるために、なぜその公式になるのかまでを考えさせ、問題に取り組ませていく。また、教科書の範囲内での理解で満足することなく、身の回りのものの数量関係にも興味・関心をもち、自分の考えを筋道立てて相手に伝えることができるように指導していくことが必要である。</p>
図形	<p>○立方体の見取り図から、辺と平行な辺をさがすことや直方体の展開図を理解することができている。立体の積木などの具体物を常に児童の手元において指導をしたことの成果が表れたと考える。</p> <p>●平面図形の作図の正答率が低く課題が見られる。コンパスと定規の使い方と作図の手順の理解が不十分であることが原因と考えられる。</p>	<p>・今後も、立体の積木などの具体物を常に児童の手元において指導を継続していく。</p> <p>・コンパスと定規の使い方と作図の手順を十分理解させるため、作図演習に取り組ませていく。作図の際、作図に用いた線は消さないことも意識させるよう指導を徹底していく。</p>
数量関係	<p>●表にあてはまる数を求める問題や複合図式で、面積を求める図と合った式を選ぶ問題について、正答率が低く課題が見られる。</p>	<p>・二次元表を読み取ることや、二つの折れ線グラフを比べて、目盛りの取り方の違いから発言が正しくないことを証明することに関して、発表の際に筋道を立てて説明する演習も徹底させていく必要がある。</p>

# 宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.1	59.0	58.3
	生命・地球	47.7	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	43.6	52.5	51.4
	観察・実験の技能	54.4	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	47.4	61.0	60.6



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○金属・水・空気と温度の問題で、金属は温めると体積が増加することから、夏のレールのつなぎ目の様子を推測することがよくできている。</p> <p>●電気の働きの問題で、回路を通る電流の流れを「電流」ということや、直列つなぎで電流が強くなること、乾電池の配置によらず2個の乾電池の直列つなぎをつくる問題の正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・知識・理解が不十分だった「空気と水の性質」や「金属・水・空気と温度」では、実験を通して一人一人に確認させたり実際の生活体験を想起させたりする。また、「電流のはたらき」では、回路や電流という用語を意識できるよう繰り返し指導する。</p> <p>・実験の技能が不十分だった乾電池のつなぎ方では、関連した単元で直列つなぎと並列つなぎの用語と実際のつなぎ方を繰り返し指導したり作図をさせたりして定着を図る。</p> <p>・思考・表現については、知識・理解や実験・観察とも関係が深いので、関連した単元や既習事項の復習をするときに、空気や水の押し縮められ方の違いや金属や空気のおたまり方の特徴や光の当たり方による光電池の電気の起こり方の違いなど、正確な実験や観察を通じて得た正しい知識をもとに、自分の考えを表現できるよう指導する。</p>
生命・地球	<p>○月と星では、方位磁針の正しい使い方を答える問題の正答率が県平均をやや上回った。グループで実際に方位磁針を使って学習したことや社会科の学習でも扱っていたことの効果がでたと考える。</p> <p>●水は熱しなくても蒸発して空気中に出ていくことについての問題や、時間の経過による星の見え方の変化と星の並び方についての問題の正答率に課題が見られる。また、人の背中が丸く曲げられる理由や、気温とヘチマの茎の伸びとの関係などを説明する問題の正答率が低い。</p>	<p>・知識・理解が不十分だった「季節と生き物」や「月と星」や「天気のように」については、関連する単元などで既習事項を復習したり実際の生き物や星を観察してできるだけ本物に触れたりして確認をする。</p> <p>・実験・観察の技能が不十分だった星座早見の使い方は、一人一人に操作させ繰り返し指導して定着を図る。</p> <p>・思考・表現で正答率が低かった人の体がまるく曲げられる理由については、関連する単元や他教科で「関節」の用語をしっかりと指導して、自分の言葉で説明できるようにさせる。</p>

## 宇都宮市立宮の原小学校 第5学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」に肯定的に回答した児童の割合は96.3%で、学ぶ意欲についての6つの質問すべてにおいて、肯定的回答の割合が県の平均を上回った。基礎基本の定着を図るために、興味・関心を高める授業を行うよう努めたことの成果であると考え、今後も学習への意欲を高める取り組みを継続し、基礎基本の定着を図りたい。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」に肯定的に回答した割合は96.3%で、県の平均を9.5%上回った。また、他人とのかかわり方についての他の2つの質問でも肯定的回答の割合が90%を超え、温かい人間関係を築いている児童が多いことがうかがえる。児童を認め、児童同士が認め合えるよう指導してきた成果であると考え、今後とも授業での話し合い活動などを通じて、児童の温かい人間関係の醸成に努めたい。

○「宿題はやりたくない内ようだ」という質問に肯定的に回答した児童は70.4%で県平均を上回った。また、「宿題の量はちょうどよい」と答えた児童の割合は88.9%で県平均を14.5パーセント上回っている。ただし、7.4%(県平均5.5%)の児童が宿題が「少ない」と感じていることも踏まえ、今後も適切な量を検討しながら宿題での学習を行わせたい。

●「家で、学校のじゅ業のふく習をしている」と答えた児童の割合は42.6%で、県平均を20.8%下回った。また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童は57.4%で県平均を11.8%下回っているほか、家庭学習時間が1時間未満と答えた児童は、平日で70.4%(県44.5%)、休日では77.8%(県43.6%)になっている。時刻を決めた家庭学習が習慣化できるよう、「家庭学習の手引き27」の活用を家庭にも呼びかけ、協力・連携して指導に努めたい。

●「友だちの前で自分の考えや意見を発表するのは得意だ」と答えた児童が50%だった。県平均を上回っているものの半数の児童が苦手に感じている。今後は、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と答えた児童の割合は高いので(81.5%)、授業では話し合い活動を充実させ、話す機会を設けるよう努めたい。また、朝の会でスピーチをするなどの活動も取り入れたい。

●「見てはいけないサイトにつながらないようにしている」と回答した児童が46.3%で半数を下回った。また、「わからない」と回答した児童が48.1%で県平均を上回った。今後は携帯電話を持つ必要があるのか検討を促すほか、フィルタリングの機能やインターネット等の危険性について、保護者だけでなく児童にも周知していきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよくしている」と回答した児童の割合が57.4%で県平均(67.4%)を下回った。今後は、より分かりやすい授業の展開とともに、振り返りを効果的に行えるよう努める。